YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	L.H	学部・学科	国際商学部
学 年	2 年	派遣国	アメリカ
派遣大学	ニューヨーク州立大学ストニーブルック校		
プログラム名	Global Academic Program (GAP)		
期 間	2023 年 7 月 8 日～2023 年 8 月 19 日		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

留学生向けのライティングに特化した授業(Introductory Writing Workshop)と、ソーシャルメディアに関する国際問題を取り扱う授業(Social Media and Disinformation)の 2 つの授業を受講した。
ライティングのクラスの前半 3 週間は自分自身の人生について書く Personal Narrative、後半 3 週間は著名人のスピーチを Pathos, Logos, Ethos という 3 つの表現方法の観点から分析を行う Rhetorical Analysis の 2 本立てで授業が行われた。それら 2 つの課題の完成版を提出することが期末課題だった。一回の授業の流れとしては、課題に関連した資料を読む→グループでディスカッション→個人の課題に取り組むという流れだった。また週に一度、1 時間程度チューターと一対一で課題の添削を行う時間が設けられていた。前半 3 週間は毎授業、手本として村上春樹など有名作家の Personal Narrative を読んで手本を学んだ。この授業の受講生は自分以外中国人留学生だったため、中国に関する記事を読むことが多かった。後半は、ハーバード大学の卒業式で読まれた J.K.Rowling のスピーチについて分析を行った。この授業で印象的だったのは、公の場で自分の本名ではなくニックネームで名前を呼ぶ事の是非を問う資料を読んだ事だった。初回の授業で自己紹介を行った際、中国人の留学生全員が本名とは全然違うニックネームを合わせて紹介していて、疑問に思っていたが、その資料を読んで、発音の難しさの配慮、名前間違えを防ぐという理由でニックネームを作っていることがわかった。
ソーシャルメディアに関する国際問題の授業では、授業前に予習として 3 種類ほどの記事を読んで感想文を提出、授業内では教授による事例などのレクチャー、生徒同士でのディスカッションという流れで行われた。特に Misinformation、Disinformation の内容をメインに授業が行われた。日本の政治はあまり SNS と密接な関係性が内容に感じるが、この授業を通してアメリカをはじめ他国は、それぞれが支持している政党が有利になるようにフェイクニュースを流すほど、SNS は政治活動にとって欠かせない存在を持っているという印象を持った。

（２）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

これまで中立な視点で書くアカデミックな文章ばかり書いていたが、ライティングの授業を通して自分自身の経験を効果的に鮮明に伝える方法を学んだ。自分自身の経験を書く際は、端的な文章で鮮明に情景を表現することが大切で、特に時間の進み方を一方通行にする(Before など時節を表現する文章を並び替える)事で情景が思い浮かびやすいことがわかった。
また、ソーシャルメディアに関する授業では SNS に関する日本とアメリカの違いを多く学んだ。1 番の違いは S NS の政治的利用だった。日本の場合、政治家自身が S NS を利用する場合は自身の広報活動が 1 番の目的で、支持者は各政治家の言動に対する考え（主に批判）を投稿するように感じるが、アメリカではトランプ政権の時期を例にすると、政治家・支持者ともに、それぞれに最大のメリットを得られるようにフェイクニュースをはじめとする Misinformation や Disinformation を容赦なく拡散することが大きな違いだと感じた。またアメリカ人は日本人と比較して自分の意見をしっかりと持っている印象があり（国民性）それによって、政治家や企業の言動、社会的現象に対して、自分の意見を S NS を利用して発信していることがわかった。

（３）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

高校時代の留学では、留学生が自分ひとりだったこともあって授業についていけない時が大半、先生に質問する事ですら難しく、海外で授業を受けることに対してトラウマのような感覚を持っていたが、今回はそのようなネガティブ要素を払拭し、異国で勉強する楽しさを知ることができた。今回は留学生が多かったこともあり、自ら発言したり、容易に先生に積極的に質問に行く雰囲気があり、躊躇することなく行動に移すことができた。特に、授業内で発表した日本人としての自分の考えを先生やクラスメイトが関心を持ってくれて、自分の意見についてさらに深めることができたことは大きな自信につながった。日本に憧れや良い印象を持ってくれている人が多くいることが実感できた。普段の日本の授業では日本人としての考え方しか共有できないが、今回色々な留学生や現地性との交流を通して、それぞれの国の文化や慣習の違いからくる様々な意見を知ることができたのはとても楽しく、大きな収穫だった。

（４）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

本当は取りたかった経営系の授業は全てオンラインだったため履修しなかったが、どちらの講義も日本の大学で学ぶことが無いような授業を取ることができた。また、直接的に経営と関係性のない授業ではあったが、授業を通して自分自身で SNS と企業の結びつきなど経営やマーケティングに関する内容を考えることができた。自分は将来、グローバルに事業を展開している企業に就職し、マーケティングなどに携わりたいと考えているので、海外(アメリカ)の日常生活に対する SNS の存在を知れたことは、マーケティングを行う上で海外で効果的な S N S の活用方法を考える際に必要な要素になると思う。

YCU 第２クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	K.K	学部・学科	理学部・理学科
学 年	2 年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校		
プログラム名	Global Academic Program (GAP)		
期 間	2023 年 07 月 08 日～2023 年 08 月 18 日		

（１）授業や課題、演習はどのような内容であったか。（800 字程度）
（可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい）

夏の集中講義を 2 つまで履修でき、アメリカ人と本プログラム参加者と共に学ぶことができ、自分は恐竜古生物学(BIO 114: Dinosaur Paleontology)と神経生物学の原理(BIO 334: Principles of Neurobiology)を履修した。

前者では、恐竜やそれに類する動物の骨の構造や特徴、系統樹での立ち位置に加え、化石ができるプロセスや発掘時に用いる機器の解説、当時の植生などを学習した。授業では、Brightspace という同大学のポータルサイトでダウンロード可能なスライドが配布され、そのスライドを基に授業が進められた。進行の途中で、YouTube 動画を多数交え、教授による解説があった。印象的だったのは、授業では生徒の積極的な参加が求められた点で、質問や案を出しながら授業が進められた。テストは小テストが 2 回、期末テストが 1 回でグループで問題を作成する課題や恐竜やそれに類する動物について 2~3 ページのレポートを書き、プレゼンする課題が課された。テストは選択式で Socrative というサイトで実施され、問題作成課題は Purposegames というサイトで行った。

後者では人間における大脳皮質の構造や脳の各部位の働きや脊髄神経の構造や働き、伝達方法などの基礎的な情報に加え、アルツハイマー病、クロイツフェルト・ヤコブ病、パーキンソン病、統合失調症、ハンチントン病などの病理学的な解説や薬理作用に関する解説も行われた。授業はハイブリッド式で 4 動画ずつに 4 問以上の質問を Brightspace で提出し、授業で教授が重要なポイントと生徒から出た質問に主にスライドを用いて解説していく形式で行われた。授業スライドや動画でのスライドはすべて Brightspace に掲示され、ダウンロード可能だった。印象的だったのは授業内容で、病理学や薬理学的な解説が非常に興味深かった。テストは全部で 3 回あり、マークシート方式だった。

（２）授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

恐竜の授業では、恐竜の定義やプテラノドンなどの動物は恐竜に属さないこと、恐竜の頭の骨の構造がどうなっていて英語で各部分がどう呼ばれているのか、竜脚類は巨大であり、長い首は縦方向ではなく横方向に伸びていたこと、化石がどのようなプロセスで形成されるのか、鳥類は恐竜に属するということ、恐竜古生物学では鳥類を除く全恐竜が死滅したことがなぜなのか議論されていることなどを知ることができた。また、授業での課題でプテラノドンがペリカンのような生態をしていた、つまり、海付近に生息し魚などを食べていた等のことや、進化論で、動物が羽を使って空を飛ぶ際、高いところからグライドしたのか、それとも羽をパタパタさせて飛んだのか議論があることを知ることができた。

神経の授業では、ドーパミンは血液脳関門（BBB）を通過することができないが非常に構造が似ている L-Dopa は BBB を通過することができることや、人間の大脳皮質は 6 つの層に分かれていること、ニコチンや食べ物や違法薬物などの各依存性物質の依存度合、さらには人間の記憶がどういうプロセスで保管されているのか研究が進められていることなどを知識として得られることができた。また、様々な神経の病気を患っている患者の検証実験の手法を知ることができた。

（３）授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前はアメリカの理科系の授業についていけるか若干不安があったが、受けた後ではだいぶ自身が持てるようになり、また、アメリカの大学・大学院に将来留学したいと強く思うようになった。また、アメリカの授業は日本のような教育方法とは異なる方法で授業を行っていると思っていたが、日本と同じような授業も存在することがわかり、アメリカの授業と一言に行っても様々な形態があることが理解できた。アメリカの授業は生徒と教授がリラックスした状況下で議論をするということにフォーカスを当てているという風にも感じた。授業の在り方についても変えられることがあるのではないかと思えるようになったと共に授業でこれまで以上に積極的に質問するようにしたいと思った。前述の授業改革では、全レクチャーで生徒によるプレゼンテーション量を増やし、生徒や教授で質問を投げかけ合う時間を増やすのがいいのではないのかと思った。

（４）今後にどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の経験を踏まえ、自己学習時間を増やし、授業担当の先生に積極的に質問するようにしていきたいと思った。また、授業以外でも町の構造など非常に学べることが多かったことから、今後行う研究活動でいい案が思い浮かぶように行ったことがないところに行ったり、新しいことに積極的にチャレンジしていきたいと思った。また、今回の留学で英語力の向上ができたと思うので、次回留学した時に授業が完璧に理解できるように英語の勉強をより行っていこうと思った。英検などの語学試験勉強をやっていくと共に、英語を使ったディスカッションなどをする時間が日本で作れないか模索していきたいと思ったと思共に英語を使った授業を積極的に取っていきたいとも思った。